



市内のイベントを随時発信！

十和田市ブログ駒の里

検索

8/16 願いを込めた灯ろう、稲生川を流れる 稲生川灯ろう流し

稲生川第一西裏橋を中心に、復活してから7回目となる「稲生川灯ろう流し」が開催されました。

多くの市民らが、「先祖供養」、「家内安全」、「豊作祈願」などさまざまな願いを記し、約250個の灯ろうを持ち寄りました。橋のもとに集まった観客が見守る中、市消防団第1分団員の手により、灯ろうが次々と川に流されると、淡い光が川面を彩り、辺りを幻想的な雰囲気包みました。



淡い光を放ちながら流れる灯ろうを、家族連れなど多くのかた見送りました

7/26-27 十和田観光電鉄鉄道路線の歴史を探る 寺子屋稲生塾「とわだ時空調査隊」

南公民館などで、寺子屋稲生塾3回目の講座「とわだ時空調査隊～十鉄の鉄道路線の歴史をさぐる～」が行われ、塾生11人が参加しました。

塾生は、壁新聞をつくる班やクイズ班、4コマまんが班に分かれ、十和田観光電鉄の鉄道路線について調査。旧七百駅などを訪れ、現在残っている車両や変電所、線路などを見学した後、班員で協力しながら壁新聞などを作成しました。



独特の呼び出し方法が珍しい鉄道電話に興味深々な塾生たち



8/15 三本木農業高校、決勝トーナメント1回戦で惜敗 選抜高校相撲十和田大会

市相撲場で「第63回選抜高校相撲十和田大会」が開催され、全国から40校が参加しました。

地元の期待を集める三本木農業高校は、けが人が相次ぎ、ベストメンバーが組めない中、16強による決勝トーナメントへ進出。木造高校との県勢対決となった1回戦、1対2で惜しくも敗退しました。敗退が決まり、悔しさをあらわにする選手に、会場の観客から大きな拍手と励ましの声援が送られました。

決勝トーナメント1回戦の対木造高校戦。中堅戦で小笠原隆聖選手がはたき込みで勝利。1対1とする

8/2 サンバの陽気なリズムが響き渡る 2014 十和田サンバカーニバル

市中心商店街の通称「産馬通り」で「2014 十和田サンバカーニバル」が開催されました。

今年で4回目となるカーニバル。地元の子どもたちを中心とした「オス・サンボンギス」や本場ブラジル人ダンサーを要する「サマー・トレジャー」など8チーム、約250人が参加しました。色鮮やかな衣装に身を包みながらサンバのリズムに合わせて踊るダンサーらに、詰め掛けた多くの観客は魅了されていました。



ダンサーが見せる華麗なステップに、沿道の観客から大きな拍手が送られていました

7/27 北奥羽圏10都市によるアマチュアスポーツの祭典 北奥羽総合体育大会

十和田市を主会場に「第65回北奥羽総合体育大会」が開催されました。

北奥羽圏（八戸市、三沢市、むつ市、上北郡、三戸郡、岩手県久慈市、九戸郡、二戸地区、鹿角市、十和田市）の各地域から選手や役員など約2,500人が参加し、先行開催していた卓球やサッカーなど合わせて19種目にわたって熱戦が繰り広げられました。競技の結果、総合優勝は八戸市。十和田市は第2位となりました。



十和田市対久慈市（白）の一戦。ゴール下に切り込みシュートする十和田市の選手



花火を間近で見られる「花火観覧船」も出航。多くのかたが十和田湖での花火を楽しみました

7/19-20 夏の観光シーズンの幕開け 十和田湖湖水まつり

十和田湖畔休屋で、「第49回十和田湖湖水まつり」が開催され、まつり期間中は、フリーマーケットやよさこい演舞などのイベントが行われました。

20日に行われた「さかな掴み捕り」には多くの子どもが参加。必死に逃げる魚を歓声を上げながら捕まえていました。夜には両日とも花火が打ち上げられ、夜空に大輪の華を咲かせるとともに、湖面にも花火が映し出され、訪れた観客の目を楽しませていました。

姉妹都市交流を記念 高知県土佐町が「あじさい」の苗を寄贈

このほど、姉妹都市である高知県土佐町から、来年で30周年を迎える姉妹都市交流を記念し、町の花として制定している「あじさい」の苗100本が、市に寄贈されました。

寄贈された苗は、十和田湖温泉町内会員や大町桂月を語る会の会員などにより、十和田湖温泉スキー場駐車場周辺に80本、道の駅奥入瀬駐車場周辺に20本、大切に植樹されました。今はまだ小さいあじさいですが、今後、見事な花を咲かせ、市民の目を楽しませてくれることでしょう。



▼成長が楽しみです

▲「大きく立派に育つように」と、願いながら、1本1本丁寧に植えられました（写真は十和田湖温泉スキー場駐車場）

白馬を描いた絵画を称徳館に寄贈 画家・久保田政子さんに感謝状を贈呈

市馬事公苑称徳館に平成26年1月、白馬を描いた絵画「苜蓿」（100号相当）を寄贈した、八戸市出身で馬を描く画家・久保田政子さんに対し、小山田市長から感謝状が贈呈されました。

久保田さんは、「苜蓿」は約10年前に描いた作品で、東京のアトリエを訪れた八戸市出身の芥川賞作家三浦哲郎さん（1931～2010年）が作品名を付けたというエピソードを披露し、「最近では馬の活躍する場が少なく残念、馬の絵姿でかつての栄光を残したいですね」と、話しました。



称徳館に展示している「苜蓿」の前で、小山田市長から久保田さんへ感謝状が手渡されました